

[K7] 課題研究のための海外フィールドワーク

- 1 目的
 - (1) 現地大学と連携したフィールドワーク、講演、文化交流、現地企業と連携したプレゼンテーションにより、生徒の課題研究の進展及び国際意識を身につける。
 - (2) 将来、国際的に働いたり、グローバルビジネスの起業を考えたりする際に不可欠な人的ネットワーク構築術を身につける。
- 2 日程 平成 30 年(2018 年) 8 月 13 日(月)～21 日(火)
- 3 方面 アメリカ合衆国 アーバイン市、コストメサ市、ラグナビーチ市など
- 4 参加者 2 年生 10 名(男子5名・女子5 名) 引率2名 添乗員1名)

Program schedule: North America course

Date: 9 days from August 13 to 21 Member: 10 students (5 boys and 5 girls), 2 teachers

Day	Date	Place	Time	Transportation	Notes
1	Aug. 13	Narita airport L.A. airport	14:30 18:05 12:55 14:00 18:30	Airplane (AA170) Chartered bus	Meeting at Narita airport Leaving Narita to L.A. Arriving L.A. Visit Griffith Observatory, city area etc. Dinner at hotel (Stay at Ayres Hotel & Suites Costa Mesa)
2	Aug. 14	UCI	9:00 17:30 18:30 0	Bus	Exchange program at University of California Irvine Business idea presentation Lecture by Dr. Shiraiwa Dinner at hotel (Stay at Ayres Hotel & Suites Costa Mesa)
3	Aug. 15	UCI	9:00 18:30	Bus	Lecture by Dr. Glun Fieldwork on campus Lecture by JETRO Dinner at UCI Return to hotel (Stay at Ayres Hotel & Suites Costa Mesa)
4	Aug. 16	UCI	8:30 18:30 19:30	Chartered bus	Visit Horiba Instruments Fieldwork at Laguna beach Lunch and fieldwork (Beach town, shopping mall, tourist sights, UCI) Return to hotel Dinner (Stay at Ayres Hotel & Suites Costa Mesa)
5	Aug. 17	UCI	7:30 9:00 12:30 17:00	Bus	Breakfast at hotel Prepare for presentation Lunch Presentation Reception Meet with host family (Stay at host family's house)
6	Aug. 18	Homestay			Spend time with host family (Stay at host family's house)
7	Aug. 19	Homestay			Spend time with host family (Stay at host family's house)
8	Aug. 20	L.A. L.A. airport L.A. airport	7:30 9:30 12:05	Chartered bus Airplane AA169	Meeting at Hotel Iris and heading to airport Leaving L.A.
9	Aug. 21	Narita airport	15:55		Arriving Narita airport

5 各日の内容

【1日目】8/13(月)

成田空港集合 ロサンゼルス到着後、ロスアンゼルス市街地を通過し、コスタメサ市のホテルチェックイン。

ロスアンゼルス国際空港は通称LAX。日本人利用者も大変多く、よく込み合うエアポートである。無事入国審査を終えると、我々総勢 13 名に対して大型の快適なバスが用意されていた。このバスを使って、コスタメサ市のホテルアイリスへ向かった。途中、ロスアンゼルス市内のLGBTの方々が多く住む地区、人種に大別された住民構成の地区などが展開しているのを紹介された。また、ハリウッド地区には映画の撮影所や配給会社の本社ビルが立ち並び、街行く人の姿もどこかしら「映画の街」に似つかわしい気がした。



研修旅行のすべてが待ち遠しかった初日。空港内を出発。

【2日目】8/14(火)

カリフォルニア大学アーバイン校における研修は、筑波大学リエゾンの川内紫真子氏のコーディネートのもと、本校卒業生である白岩学先生のご厚意により実現しているもので、私たちは、ローランドホールと呼ばれる校舎の一角を使わせていただいた(フランク・シャーウッド・ローランド博士は、他数名の科学者らとともに 1995 年度ノーベル賞化学賞を受賞している。フロンガスによるオゾン層破壊の危険性を指摘した研究を主とし、全世界にフロンガスの名前を広めた。白岩学先生は同博士の没後、急遽同大学の研究室に迎え入れられたと聞いている)。午前中は、日本語を学ぶ大学生数人を相手に「自己紹介」「地域の紹介」「学校の紹介」などでコミュニケーション活動、午後は白岩学先生の研究紹介や、先生ご専門の「大気汚染」についての概論を拝聴する。

日本を出発する前に白岩先生からいただいた宿題は、「各国の大気汚染に対する国策について」でした。私たちはそれぞれ、日本、アメリカ、中国、ブラジル、ドイツ、オーストラリア、ロシア、韓国、インド、南アフリカ共和国の大気汚染対策について調べ、この日の発表に備えました。実際には多くの人の前での発表ではなく、白岩先生の研究室で学ぶ、ポストクの学生さんたちが私たち2~3人のグループに一人ずつついてくださり、彼ら相手に調べてきたことを聞いてもらう、コメントをいただく、との展開でした。「内容はともかく、英語だとうまく伝わっているかどうか心配…」との感想多し。



白岩学先生と、先生の学生らとの記念撮影。ここが先生の研究室。

【3日目】8/15(水)

午前はローランドホールにてグルン教授の講義、午後はUCIのキャンパス内の環状道路「リングロード」を進み、Student Center 近くを拠点にフィールドワークを行いました。この日は天気も良く、キャンパス内も人の往来も途絶えることなくにぎやかでした。

午前中は、Dr. Felix Glun の「ライフサイエンスのスヌメ」(生物学概論)を楽しく拝聴。提示されたいろいろなフラグメント、例えば朽ち果てた落ち葉のかげら、欠けたビー玉や、コーヒー豆、植物の種らしきもの…これらを使って「生物の定義」を皆で探り出す、などの活動、これは大変興味深く楽しいものでした。Dr.Glun は実は私たちのコーディネーター紫真子先生のご主人であり、UCIの研究員のお一人。昨回同様に、今回も大変ご尽力いただきました。「生物の話になら英語でもついていけるかなと思いましたが、まだまだ単語に引っかかってしまいます。もどかしいです。」



午後のフィールドワークの前に、ロスアンゼルス JETRO から金指氏を招聘しお話をいただきました。金指氏は官僚のお立場から現在JETRO(日本貿易振興機構)に出向されており、日本の様々な分野の、大小問わずの企業が海外展開するとき、多角的なサポートをはかるという仕事をしています。そのお話は、アメリカ西海岸がいかに日本企業の拠点に向いているかという地理的な利点や、全米の中でも流行の発信を担う地域のひとつであるという点など、まさにビジネスの領域の話題が満載でした。



UCIはまさに新学期を間近に控えており、新入生となる学生とその保護者の姿もちらほら見てとれます。また、時間帯は昼休みにあたり、皆この時間を狙って食事をしたり、急いで午後の授業の場所へ向かったり、友人と待ち合わせしたりと忙しそうです。なかなか声をかけられなかったり、かけても'Sorry'のひと声で断られてしまったりで皆、意気消沈。(意外にデリケート過ぎるなあ)、と見ている方は気が気でありませんでした。それでも少しずつ慣れてきて、回答用のシールがいっぱい貼られたスケッチブックを満足そうにしていました。



【4日目】8/16(木)

今年も堀場製作所を訪問しました。堀場製作所は、国内外シェア上位を占める計器類の制作を中心とした京都発祥の企業であり、本校SGHの海外フィールドワークでお世話になるのは2年目となりました。担当して下さっている方々には、このプログラムの意義を深くご理解いただきおご多忙の中を、私たちのために時間を割いてくださいました。①自己紹介(生徒・引率および堀場のスタッフ)、②課題発表、③質疑応答、④社内見学などが主な内容ですが、②の課題発表時には、今年現地スタッフ(アメリカ人)が観覧に加わりました。みなさん大変熱心に聞いてくださり、当然たくさん質問が寄せられました。ありがとうございました。



企業側へ自己紹介をします。



社内の明るく開放的な雰囲気が印象的。



記念撮影の時間ありがとうございました。

堀場製作所を後にし、この日の午後は観光地・商業地区にフィールドワークの場を求めました。この年の大リーグの話題をさらった大谷翔平選手の所属地アナハイムエンジェルスの本拠地エンジェルスタジアムにも立ち寄りました。「OTANI」の文字踊る様々な商品がアメリカ西海岸にて売られています。ラグナビーチは西海岸の中でも洗練された人気のビーチタウンで、UCIキャンパス内で行ったフィールドワークとは異なる結果が得られたのではないのでしょうか。この日、リラックスしたアウトティングがかない、皆アメリカ西海岸の別の町を堪能しました。



エンジェルスタジアム



アナハイム市庁舎庭園



アナハイム市街地散策

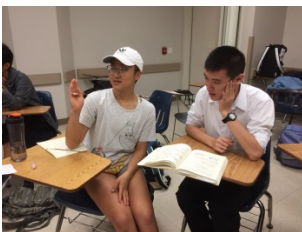


アナハイム市街地散策

【5日目】8/17(金)

午前には日本語クラスのアシスタントを努めました。UCIの学生との貴重な交流の時間となりました。

午後はいよいよ Applied Innovation におけるビジネスアイデアコンテストのプレゼンテーションを行いました。この日の観覧客は、UCIの教授、企業留学生(JR東日本)、日本語を勉強する学生、近隣の中高生など。皆、緊張して発表に臨みました。観覧客は、興味津々で質問やコメントを発してくれます。「質問が聞き取れない」、「どう答えてよいかわからない」などの悲鳴が上がりました。英語の上達も、グローバル人材となるには必須のアイテムであることを痛感しました。



日本語クラスのアシスタントは絶好の交流の場でした。



私たちのコーディネイターを努めてくださった川内紫真子氏を囲んで、AIの発表が終わったあとの記念撮影です。

【5～7日目】8/17(金)～19(日)

5 日目, UCI での発表を終えてホテルに戻ると, 2泊3日のホームステイ研修です。一般家庭で人的な交流を進めながら各自の課題研究を更に進めるべく, 違った角度からアメリカの生活を観察します。ステイ先のファミリーの人種も様々で, その暮らしも背景の違いが見える興味深いものとなりました。一人一人, 思い思いの週末を過ごしました。買い物に出かける者, 美術館・博物館を訪れた者, 教会の礼拝に参加した者, 近郊までドライブに出かけた者など思い出深い週末になりました。



お世話になりました。



思い出をありがとう。



再会を約束して…。

【8日目】8/20 朝8時出発, 9時半空港到着チェックイン完了, 11 時搭乗開始

【9日目】8/21 午後3時成田空港到着, 解散

6 参加者感想文より

The most interesting experience for me was communicating with the university students who is studying Japanese in UCI. We even visited their classes and helped them understanding. We listened intently to what they are trying to say in Japanese, and we could learn that native English speakers have the same feeling while we are talking in clumsy English. This made me to speak more actively. The students were very friendly and we had good conversation in both English and Japanese. TR

Dr. Shiraiwa showed me the way to study and work in overseas. When I was asked what I want to do in my future, I only thought of something in Japan automatically. However his story made me think of a new way of thinking. After listening to his life, I decided to keep on looking for what I can do IN THE WORLD flexibly. HR

We took a lecture of Dr.Fellix Glun at UCI about what is definition of living things. What impressed me most was we separate living things from not living things without thoughts. Dr. Glun tried to guide us to the keyword to explore how we realize it. Following Dr Glun's instruction we gradually reached it. The content was interesting, but listening to a lecture in English was challenging. SH

We visited HORIBA and had a presentation in front of its employees. They were local people and it was our second time to have our presentation heard by native speaker of English. I guess I made it better than the first one but it was very difficult to answer their questions after my speech.